

研究室めぐり II

広島大学総合科学部

広島市の中心部に近い東千田町にある広島大学本部キャンパスの中、総合科学部の屋上にドームが見える。このドームとその真下の5階にある研究室とが広島大学総合科学部天文学教室である。

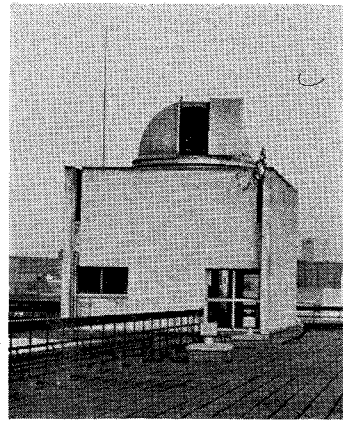
昭和24年広島大学発足のとき、村上忠敬氏が教養部天文学教室を開設されて以来、西日本における天文教育の中心として大きな役割をはたしてきた。現在の研究室とドームは昭和40年にできたものである。昭和45年村上氏は広島女学院大学学長に就任し、内海和彦が後任となった。昭和49年教養部は改組されて総合科学部になり、全学の一般教育を担当する上に、学部固有の学生を持つことになった。天文学教室は環境科学コース、基礎科学研究講座に属している。

現在、一般教育の学生約600人に前後期を通じて天文学を教える他、総合科学部環境科学コースの3,4年生にやや程度の高い天文学を講義している。総合科学部の学生が天文学を専攻することも一応可能ではあるが、総合科学部になってかなりの増員があったにもかかわらず天文学のスタッフは1人で、非常に条件が悪いと云わざるを得ない。

主な装置としては、25cm反射(西村製)の他、15cm反射、8cm屈折など10台近くあり、授業に用いる他天文学研究会(部員数約40名)が使用している。

また、マイクロフォトメーター(ナルミ製)があり、これによって内海は岡山天体物理観測所で撮影した炭素星のスペクトルの解析を細々と続けている。

広島大学は数年後には東広島市(西条)に移転することになっていて、移転の計画も進められているところである。移転後の天文学教室の発展に期待したい。



☆ ☆ ☆

◇ 2月の天文暦 ◇

日時	記	事
4 10	上弦	
4 19	立春	(太陽黄経 315°)
9 15	水星	外合
10 19	月	木星接近
11 12	月	最遠
12 12	望	
14 4	月	土星接近
19 15	雨水	(太陽黄経 330°)
20 10	下弦	
24 22	天王星	留
26 7	月	最近
27 2	朔	

